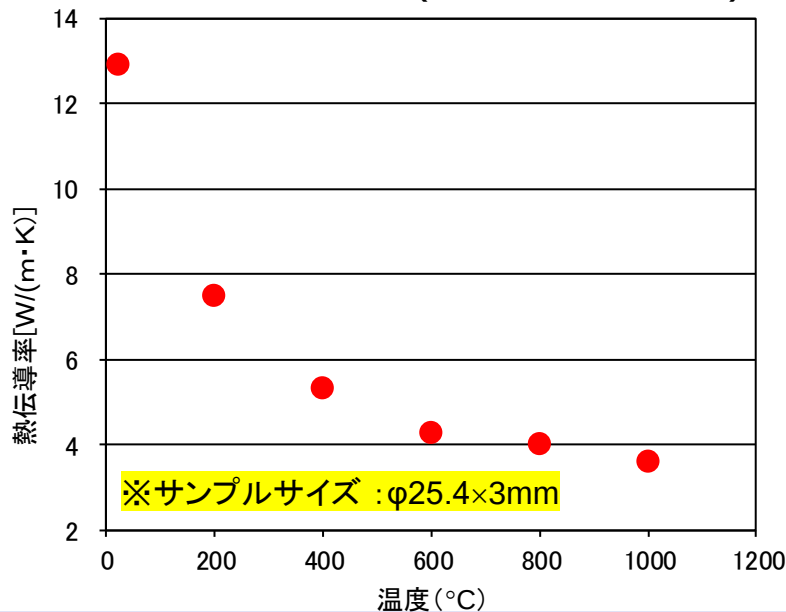


レーザーフラッシュ法と熱線法との測定例

レーザーフラッシュ法と熱線法の両方で高アルミナれんがの熱伝導率を測定した。
高アルミナれんが (Al_2O_3 92%, SiO_2 6%, Fe_2O_3 0.2%, その他 1.8%)

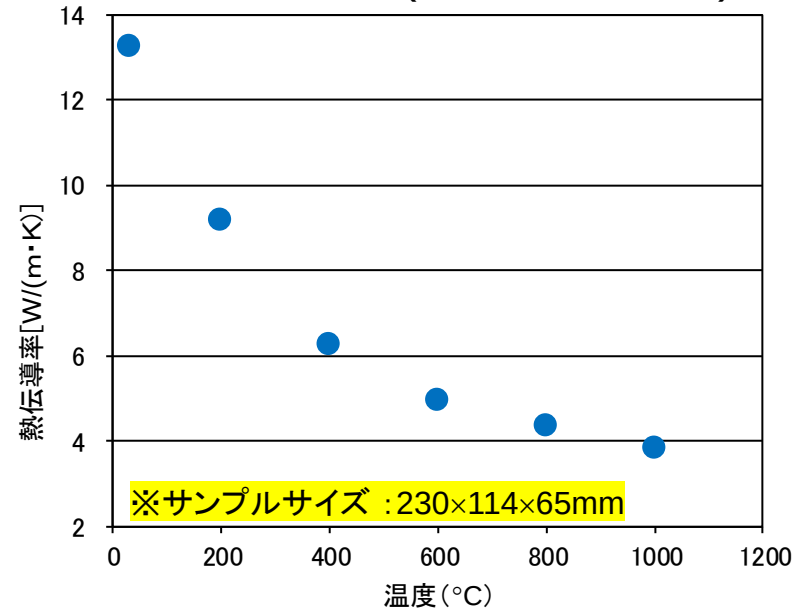
2)レーザーフラッシュ法 (LFA-457での測定)

測定条件: 1000°Cまで200°Cごと
(雰囲気;窒素中)



2)熱線法

測定条件: 1000°Cまで200°Cごと
(雰囲気;大気中)



今回のレーザーフラッシュ法と熱線法との測定結果では、ほぼ同等な結果が得られた。一般的に、レーザーフラッシュ法は耐火物では測定不可と言われているが、今回の高アルミナれんがのように、最大粒径が比較的小さく、緻密質でかつ熱伝導率の高い場合はレーザーフラッシュ法でも測定が可能であると考ええる。